

沖縄戦の史実を学ぶ

修学旅行の仙台高 渡嘉敷で平和学習



「戦争は二度と起こしてはならない」。慰霊碑の前で黙とうをささげる仙台高校2年5組の生徒ら＝4日、渡嘉敷村の集団自決跡地の慰霊碑前

【渡嘉敷】修学旅行で来県した宮城県の仙台高校2年5組の生徒34人と担任のジョーンズ・江里教諭らが4日、1泊2日の日程で渡嘉敷村を訪れ、沖縄戦の歴史を学び、島の自然を満喫した。

一行は、国立沖縄青少年交流の家での宿泊体験に平和ガイドの米田英明さん(71)を講師にした平和学習を組み入れ「渡嘉敷島の沖縄戦」の講話を受けた。その

後、「集団自決跡地」の慰霊碑を訪れ、ガイドの説明を聞き、黙とうをささげた。

米田さんの母(92)の父、兄の2人は手りゅう弾による「集団自決」(強制集団死)で死亡した。米田さんは、奇跡的に生き延びた祖母と母や戦争体験者らから聞いた歴史を語り継いでいる。

米田さんは「当時の島民は『米軍の捕虜になつてはいけない』と日本軍から手りゅう弾を手渡された。子

どもや女性が犠牲になる戦争は二度と起こしてはいけない」などと話した。

また、文科省の2007年の教科書検定で、高校の歴史教科書から「集団自決」の「日本軍の強制」の記述が削除された問題にも触れ、「歴史的事実のわい曲は絶対にあつてはならない」と語気を強めた。

佐藤朝仁さん(16)は「現代の私たちの平和な暮らしの背景に、悲しい歴史があることを学んだ。貴重な体験だった」、平塚七夢さん(16)は「教科書には戦争の真実を書いてほしい。戦争と平和について理解を深めることができた」と感想を話した。

土佐之塔慰霊祭 高知戦没者弔う

八重瀬、遺族ら手合わせ

【八重瀬】八重瀬町貝志頭にある高知県の「土佐之塔」でこのほど、慰霊祭が開かれた。遺族12人と高知県の関係者ら計19人が来県した。八重瀬町の関係者らも参列し、太平洋戦争で犠

美ら島だより

南